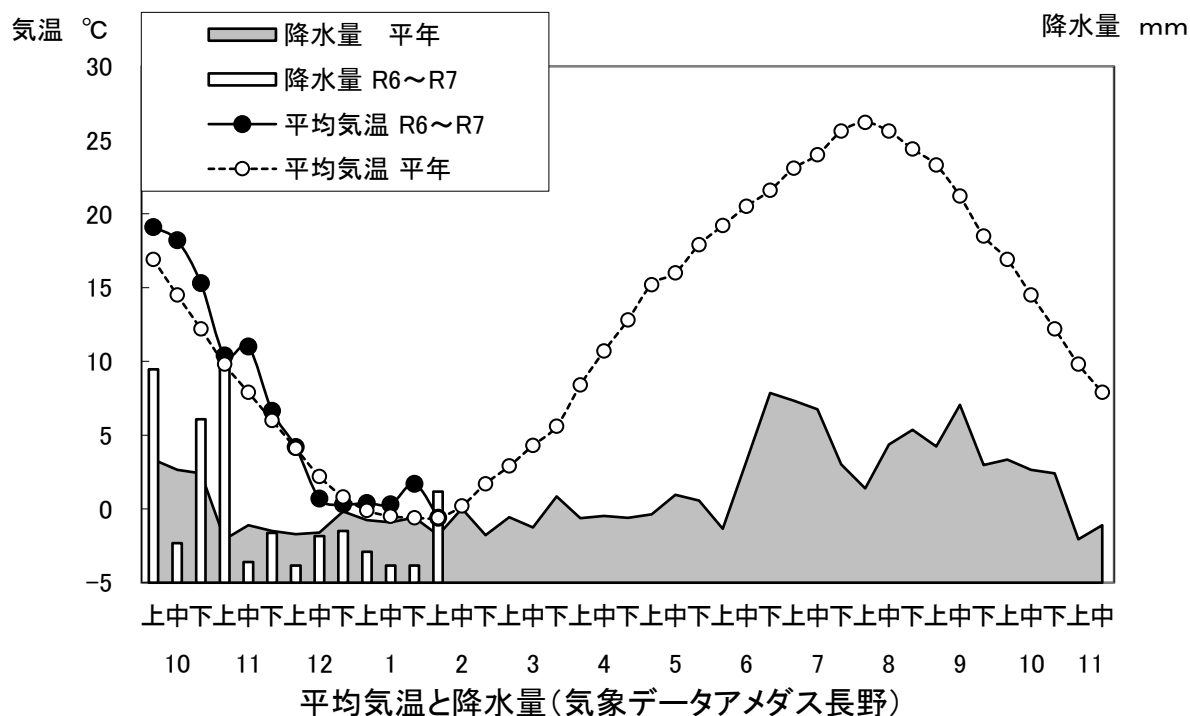


農作物の生育状況（2月15日現在）について

令和7年2月15日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 麦

大豆との二毛作ほ場で麦のは種が遅れ、11月下旬以降は種の麦は生育量が不足している。千曲市の11月上旬は種「シュンライ」は茎数500本/m²程度で葉の黄化が目立つ。千曲市の10月下旬は種「ユメセイキ」は茎数1,500本/m²程度で過繁茂傾向。長野市の「しゅんよう」は、10月下旬は種で茎数500本/m²程度、11月中旬は種で茎数300本/m²程度。長野市の「ハナチカラ」は11月中旬は種で茎数300本/m²程度、12月上旬は種で茎数150本/m²程度。生育量の少ないほ場では、早期の越冬後追肥による茎数確保が必要である。

【果樹】

さくらの開花予測が4月7日と発表され（1月29日時点、ウェザーニュース）、平年より4日程度早い予測となった。3月の気温は平年より高く、昨年より高くなる傾向のため、開花も平年並み～やや早くなると予想されています。果樹の生育も令和6年度よりは早まることが予測されるため、防除や芽傷処理、摘蕾作業等、時期を逸しないようにすることが重要となる。

【野菜】

(1) アスパラガス

ハウス作型の早いところでは芽が動き出している。早期収穫を狙う場合ではかん水をはじめ、多層保温を徹底することで凍害対策を行う。

(2) ナガイモ

秋掘の収穫が遅れたところもあり、今後まとまって収穫となる。重さ長さとも平年を上回る。

【花き】

(1) トルコギキョウ

無加温栽培の定植が始まっている。定植後は、内張りカーテンやトンネルをかけ温度を確保する。日差しが強くなってきたら、ハウス内の温度管理に注意する。日中は 25℃を目安にトンネル被覆の開閉をこまめに行い、温度を上げすぎないように管理する。アザミウマ類によるウイルス病の発生が増加しているので定植初期からの防除を徹底する。